



自治会は、地域に住んでいる人たちがお互いに協力し合って住みよいまちづくりを実施する自治組織です。自治会の活動は、主に自治会加入者のみなさんの会費で、自主的に運営されています。ぜひ自治会に加入してください。

市では、毎年11月を「自治会加入促進月間」と定め、自治会加入率の向上に取り組んでいます。市全体の自治会加入率は、以前は90パーセントを超えていましたが、年々低下し、現在の加入率は、77・9パーセントです（平成23年1月末現在）。自治会に入らない理由として、役が回ってこないことや自治会費などに負担を感じる、必要性を感じないなどがあるようです。

その一方、今年3月11日に発生した東日本大震災を受けて、最も身近な互助組織で、地域の自主防災活動の中心である自治会の必要性、重要性について、全国的に見直されています。

今回、九州大学大学院統合新領域学府の客員准教授・加留部貴行さんに、被災地の現状と、災害時の自治会組織の重要性などについて話を聞きました。自治会が果たしている役割とは何か、改めて考えてみましょう。

■問い合わせ先
コミュニティ課
☎(36) 5394

自治会の主な活動

①美化活動



快適で住みよい環境をつくるため、一斉清掃や道路沿いに花を植える活動などを通じて、まちの美化を進めています。ごみ集積場の清掃や、ごみ減量化への取り組みも実施しています。

④防犯活動

安全・安心な生活を守るため、防犯パトロールを実施したり、防犯灯や街路灯の設置、管理をしています。子どもの見守り活動にも取り組んでいます。



⑤自主防災活動



地震などの災害に備えての防災訓練や連絡網の整備で、非常時に対応できる体制を整えています。

⑥地域からの改善提案の取りまとめ

道路や排水路の改修など、行政への意見や改善提案を伝えています。



⑦市広報紙などの配布や回覧

「むなかたタウンプレス」など、市からの文書の配布や回覧をしています。地域の防犯情報やお知らせの回覧もしています。



②親睦活動

地域のみなさんの交流や連帯感を高めるため、夏祭りや文化祭、運動会など、さまざまな活動を実施しています。



③支え合いの活動

子ども会を支援したり、学校行事に協力したりして、地域で子どもを育成しています。また、敬老会の事業などで、高齢者がいきいきと暮らせるまちにしています。



東日本大震災から 私たちは何を学ぶのか

今年3月11日に発生した東日本大震災は、地震による倒壊、広範囲に及んだ津波、原発による避難など、これまでに経験をしたことがない広域で複合的な大災害となりました。

この震災では、事前に周到に準備をしていたはずの地域防災計画の大前提が、もろくも崩れてしまいました。

例えば、役所が存在することが全ての前提としていた計画でしたが、津波で役所自体が流され、職員もその生存が確認されていない状況が続きました。「どこから寄せられるもの」と思っていた災害情報は入らずに、情報過疎となってしまった地域が数多く出ました。津波という自然の猛威は、奥まった地域まで容赦なく押し寄せ、想定をはるかに超えることが現実になることを私たちに強く突き付けました。

そのような想定外の状況が続く中、いち早く避難所を立ち上げて運営し、日々の生活を支えたのは、地域の自主防災会や自治組織でした。コミュニティの基礎は、昭和の大合併時の村単位で、それが今では中学校区（宗像市は小学校区）の単位で受け継がれています。そして、その担い手は老若男女を問わず、お互いに助け合い、特に中高生が元気に活躍する姿には励まされました。被災者のみなさんは、一人ひとりが自分たちのできる最善を尽くしながら、行政や市民だけではできないさまざまなことを「協働」という形の総力戦で取り組んでいったのです。

これからの復興過程全体を目指す姿には、被災者一人ひとりの生活改善と、それを取り巻く地域のコミュニティ力（りょく）の以前にも増した強化があります。そこで、地域の課題を地域の力で解決していく身近な存在として、改めて「自治会」に注目が集まっています。

日常生活の中で、お互いの存在を認知し合い、必要な時に安否確認ができるようにしておくことで、誰とも関係を結べていない孤軍奮闘・孤立無援な人たちの「限界集落化」を防ぐことは、いざという時の何よりの安心につながっていきます。

今は個人情報保護の時代ですが、お互いが周囲と最低限の「面識」を持っておく必要性の気付きを、今回の震災から教えられました。被災地への関心や思いを長く持ち続けながら、今回の震災を他人事ではなく「自分事」としての意識を持ち、「もしもこれが宗像市で起こったら…」という想像力を働かせていきましょう。そして、今回の震災を機に、一人ひとりの日常の備えのひとつに「自治会加入」を考えておくことを勧めます。

（九州大学大学院客員准教授・加留部貴行）



加留部客員准教授



津波の被害を受けた岩手県陸前高田市

市から

健康づくり情報誌「いきいき」表紙の写真募集

市では、平成24年度の同情報誌の表紙に掲載する写真を募集。

対象 市内在住の10月31日現在で4歳未満の子ども

宗像市役所
子ども家庭課

50円

8113492

（裏面）
①いきいき表紙写真掲載希望
②住所
③子どもの氏名と生年月日
④保護者の氏名
⑤電話番号（保護者連絡先）

子ども
●定員 抽選で12人
●申込方法 11月30日（水）必着で、①いきいき表紙写真掲載希望②住所③子ども氏名と生年月日④保護者の氏名⑤電話番号を明記して、子ども家庭課へハガキ
〒811-3492
☎(36) 1365

住所（不要）で申し込む
*申込ハガキは、子ども1人につき1枚。2枚目以降は無効
*12月1日（木）に抽選で決定
*抽選後に当選者へ連絡
■問い合わせ先
子ども家庭課
☎(36) 1365